

【日本文学科 国語基礎学力型】

〔一〕

問 1	1	2	3	4
	脱 (いで)	わんぱく	てんぷ	ごうご
	5	6	7	8
	万事	猛烈	頭角	しさ
問 2	屈辱感			
問 3	2			
問 4	5			
問 5	「正味 ～ される			
問 6	3			
問 7	会読とは、			
問 8	3			
問 9	<p>高校 2 年生の頃、国語の授業で教科書に掲載されていた夏目漱石の『ころ』を読んだ。私は「先生」の様々な感情が行き交うさまを描いた文章に圧倒され、百年以上も前に書かれた小説に共感させられてしまうことに興奮を覚えた。親友であると同時に恋敵でもある「K」への複雑な感情や、つい意地悪な発言をしてしまったことへの後悔、そしてその後の悲劇をもたらしてしまったことへの罪悪感などが、驚くほど繊細な日本語と鮮やかな比喻によって描かれている。授業中に思わず声を出してうなってしまったほどだ。</p> <p>授業では、「K」に対する「先生」の感情について議論する時間が設けられた。私は、恋に一途なあまり親友を顧みなかった「先生」の悔いる姿が作品の眼目だ、という旨の発言を行った。しかし、ある生徒の『先生』は『K』の真面目な性格を把握しており、彼の自死を想定したうえで女性を手中に収めた。『K』の死という最悪の結果についても覚悟した上での行動だった」という主張を聞き、はっとさせられた。彼は「先生」に関して私とは全く異なる人物像を思い描いていたのである。解釈の真偽はどうあれ、「先生」に純朴な印象を抱いていた私は、「こういう考え方もあるのか」と感心してしまった。この頃から私は、物事に対する考え方は人によって異なると心得た上で、その差異を、新鮮な学びの機会として楽しむようになった。同時に、明治以降の近代小説に興味を持ち、暇を見つけては有名な作家の代表作に触れるようになった。</p> <p>このように、小説の感想や解釈を他者と共有し、互いに新たな発見を提供し合うことは、他者の意見を受け入れることにもつながり、精神的な成長の機会となる。現代では漫画やアニメなど様々なメディアで物語作品を鑑賞することができるが、私は映像や画像を用いずに、個々人の想像力をかき立ててくれる小説には、何にも代えがたい魅力があると考えている。(784 字)</p>			

〔二〕

問 1	4
問 2	やりみず
問 3	あさましかり
問 4	1
問 5	古人ども
問 6	5
問 7	4
問 8	2・4